

●明治神宮外苑陸上競技場で「出陣学徒壮行会」

▽昭和18年10月21日 朝から 冷たい雨

東京近辺77校の学生 3万5千人が

校旗を先頭に 制服制帽 ゲートル姿で

銃剣をつけた三八式歩兵銃を 肩に担いで

水しぶきをあげながら 雨中の行進をした

▽戦局悪化で「徴兵猶予」の特典が 停止され

満20歳の 徴兵年齢に達した学生は

理工系 医学部 師範学校を除いて

卒業を待たずに みんな 戦場へ駆り出された

▽スタンドは 見送りの家族 後輩

中学生 女学生 6万5千人で 埋め尽くされた

▽東条英機(訃)が 藤田東湖の詩「天地正大の気

粹然として神州に鍾(あま)る」を 引用し

国難に身を挺して赴く若者を 賛美 激励すれば

出陣学徒を代表し 江橋慎四郎(歿)が答辞

— 江橋の答辞 —

「生等今や見敵必殺の銃剣を掲げ積年忍苦の精神研鑽を挙げて悉く此の光榮ある重任に捧げ、挺身以て頑敵を撃滅せん。生等もとより生還を期せず」

▽「海ゆかば」「紅の血は燃ゆる」の大合唱

●出陣学徒は、この年だけで全国で推定13万人余り

▽10月25日から 本籍地で 徴兵検査を受け

陸軍は12月1日 海軍は9日 10日に入隊した

▽徴兵年齢は 19年度から 19歳に引き下げ決定

▽「徴兵猶予停止」の閣議決定は 9月21日

東条は 翌日夜のラジオで「1億総決起」に熱弁

…… 高見順は日記に(9月23日) ……………

夕方帰宅、電車のなかで日大の学生に挨拶される。「かえってさっぱりしました」という。何のことかわからなかったが、よく聞いてみると、文科系統の大学が閉鎖されたのだという。驚く。朝刊に発表してあったという。いよいよ凄くなってきた。

東条 英機(とうじょう・ひでき)

明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。昭和10年関東憲兵隊司令官。関東軍参謀長、陸軍次官を歴任し15年第2次近衛内閣陸相。中国撤兵に反対して総辞職に追い込み、16年10月首相。陸相、内相を兼務し対米英開戦。翼賛選挙、憲兵政治で独裁体制を固め、初代軍需相、参謀総長も兼務したが、サイパン島陥落で19年7月総辞職。戦後拳銃自殺を図り未遂。A級戦犯として絞首刑に

藤田 東湖(ふじた・とうこ)

文化3(1806)～安政2(1855)常陸国水戸生まれ。幕末の思想家。水戸藩主徳川斉昭の擁立に奔走し、御用人など歴任。嘉永3年ペリー来航、斉昭が幕政に登用されると、海岸防禦掛として江戸詰に。熱烈な尊皇攘夷論で大きな影響を与えたが、安政大地震で藩邸で圧死した

杉本苑子さん(訃姓)は

びしょぬれの小旗が破けて、棒だけになったのを振り回して、「ワアワア泣きながら、隊列を乱して、その出て行く人たちの後を追った。「行ってらっしゃい、行ってらっしゃい」って」

杉本 苑子(すぎもと・そのこ)

大正14(1925)～東京生まれ。吉川英治に師事し昭和38年「孤愁の岸」で直木賞

高見 順(たかみ・じゅん)

明治40(1907)～昭和40(1965)福井県生まれ。作家。本名高間芳雄。昭和10年「故旧忘れ得べき」で注目を浴びた。詩集に「死の淵より」。戦中からの日記を残し、日本近代文学館創設に尽力した。死後、文化功労者を追贈された

▽「いずれは来るもの」と 覚悟していたとはいえ

学生には 突然の発表は やはりショックだった

▽松岡欣平(京大経済部 ビルマで20年5月戦死)は

入隊までの何日かを 郷里富山で過ごし

大映映画「無法松の一生」(主役 阪妻三郎)に感動

松岡は日記に悲鳴のように訴えている

「入営前の心境であったためか妙に印象が深い。阪妻の熱演によるためか。近來の映画中傑作の一つとして見る事ができた。…運動会、提灯行列、太鼓等々、すべて走馬灯のごとく走ってゆく。すべてが過去の淡い夢と消えてしまった。いつの日にか運動会の喜びにひたれよう。俺は気が狂いそうだ。俺は太鼓を打つてみたい。俺は提灯行列をやつてみたいのだ。長袖の着物がみたいのだ。戦争、戦争、戦争、それは現在の自分にとって、あまりにもつよい宿命的な存在なのである。世はまさに闇だ。戦争に何の倫理があるのだ。大義のための戦、大義なんて何だ。痴者の寝言に過ぎない」

- 「戦争の悲惨な一齣」として語り継がれるのは、この運命の決定が、彼らの意志とは全く関わりない所で
- ▽「教育を犠牲にしても戦争継続」 国家の至上命令
- ▽教師たちは どんな思いで 送ったのか

今井登志喜(京大文部員)は 11月の最終講義で

「前途ある諸君を、今痛恨の思いをもって戦場に送る。今回の政府の措置はまさに千載の痛恨事とせねばならぬ。願わくば諸君、命を大切に。生きて再びこの教室に会せんことを」

辰野隆(京大フランス文学部)も

「諸君、生きて帰れ。戦争の帰結は問うまい。ただ生きて帰れ」

- 初級将校の不足を出陣学徒で補おうというもの

学徒出陣の細目(10月2日誌)

▽海軍志望者は、徴兵検査の際に申し出ること  
▽陸軍は3ヵ月後に幹部候補生に  
▽海軍は入隊後、試験により予備学生に採用する

「きけ わだつみの声」などから

板尾 興市(京大商科大学 本州東方海上で戦死 21歳)

「日本の直面している現実がいかに切迫しているかを実感していますから、何とか諦めはつきません。それにしてもあまりに短い月日しか残されていないので何ら今までの学問への努力をまとめた形で残すこともできそうになく、読みさした本にしおりをはさんで出かけねばなりません。ふたたび帰って書物の前にすわるのはいつの日かと考えますと、まことに寂しいしだいです」

坂巻 豊(京大文学部 朝鮮京城で戦死 24歳)

「学徒徴兵の発表の当時学生は非常に動揺したのであります。吾々の仲間には二十三日の夜おそくまで興奮して話し合ったのであります…吾々にとって問題となるのは戦場に赴く事によって死に直面すると云ふ一事であります。吾々は死を恐れてはゐないのであります。ただ如何にして此の至美なる生を諦観し得るかに最後の苦悩を感じるのであります」

阪東 妻三郎(ばんどう・つまさぶろう)

明治34(1901)～昭和28(1953)東京生まれ。本名田村伝吉。歌舞伎の舞台を踏んだ後、大正11年映画界入り。性格の強い殺陣で時代劇映画の人気を集め「阪妻」の愛称で呼ばれた。出演作品は「血煙直田馬場」「無法松の一生」「破れ太鼓」「参謀と将軍と兵」。俳優田村高広は長男

今井 登志喜(いまい・としき)

明治19(1886)～昭和25(1950)長野県生まれ。昭和5年東大教授となり14年文学部長。英国の都市発達史を専門とし、日本の西洋史学の水準を高めた。著に「英国社会史」「西洋政治史」

▽開戦時 陸軍227万 海軍31万 258万の総兵力は  
 18年9月には 陸軍360万 海軍70万 計430万に  
 増える兵隊に対し 指揮官が不足になっていた  
 ▽ことに 海軍のパイロット不足は 深刻だった  
 原因は 南太平洋ソロモン海域の 航空機消耗戦  
 米軍の ガダルカナル上陸(17年8月)以来  
 ラバウル航空隊の引き揚げ(19年2月)まで  
 1年半の間に 7,096機 搭乗員7,186人を失った  
 ▽真珠湾攻撃では 雷撃90% 急降下爆撃40%  
 水平爆撃でも27% 名人芸の技量の持ち主が…  
 ▽ゼロ戦(零式戦闘機)の威力も 通用しなくなっていた

米軍はゼロ戦の弱点を掴んだ

昭和17年7月9日、アリューシャン列島の沼地に引っ繰り返っていたゼロ戦を発見すると、飛行できるように機体を復元して弱点発見に努めた。時速が480km/hを超えると運動性能が落ちること、操縦席、燃料タンクに防弾装置のないことを掴み、前線部隊に「ゼロ戦と戦う時は時速480km/h以上を保て」という指令を出した。製造中の戦闘機にこの技術情報を取り入れ、急上昇、急降下が出来、分厚い防弾装置をつけたグラマンのF6Fヘルキャットは18年8月には実戦に登場、空中戦でのゼロ戦の優位は、みるみる失われていった。

●「総力戦態勢」を唱えながら、人的戦力の面でも後れ

▽物的戦力に 限界があったのに  
 初級将校 パイロットにも 量的不足の事態に  
 ▽日米戦争が どんな戦いになるのか  
 その認識と 展望に欠けていた  
 ▽陸海軍首脳部が「この戦争は空で決まる」  
 完全に自覚したのは18年 かなり遅くなって  
 航空機量産態勢に後れ

アルミは1機生産に陸軍機3.81ト、海軍機4.57ト必要だった。17年度航空機に充てたアルミは41%。18年度56%、19年度に全生産量を充てて、航空機生産も17年度に比べ陸軍機2.5倍、海軍機3.2倍と、大量生産態勢に転換出来た。

辰野 隆(たつの・たか)

明治21(1888)～昭和39(1964)東京生まれ。大正10年フランスに留学、帰国後東大にフランス文学の講座を開き、昭和11年教授。学位論文「ボオドレエル研究序説」をはじめ「忘れ得ぬ人々」「フィガロの結婚」「ボーマルシェ」など、多数の著書、翻訳があり、37年文化功労者

零式艦上戦闘機

昭和15年(號2600年)採用。単発・低翼で最高時速533km/h。航続距離2,200km。

攻撃重視で防禦に関心が薄い

堀越二郎技師(零戦設計)は話している。「設計要求書には速度、空戦能力、上昇力についてどれも同じように書いてあった。研究会で「どれが比較的重くて、どれが比較的軽いのか」と質問したところ、パイロットからは「みんな必要だ」と激論になった。しかし防弾装置についてはもともと要求がなかった。国家の至上命令を体してやった我々は、要求のないことまでやる余裕はなく、結局、これがゼロ戦の弱点になった」

堀越 二郎(ほりこし・じろう)

明治36(1903)～昭和57(1982)群馬県生まれ。昭和2年三菱内燃機(三菱I)に入社しゼロ戦、雷電、烈風など海軍機の設計主務者を務めた。戦後防衛大教授、日大講師を歴任し、37年日本航空学会会長

上からの強制と自発的志願

この学徒出陣、間もなく行なわれた勤労働員により日本中の学校はほとんど空っぽになった。ところが、アメリカの大学は開戦と同時に空っぽになっていた。真珠湾を攻撃され「リメンバー・パールハーバー」の合言葉に

### 海軍の飛行科予備学生制度

昭和8年から飛行機ファンの大学生に霞ヶ浦航空隊見学、体験搭乗、操縦学習に便宜をはかってやる代わりに、卒業後の兵役を海軍で務めてもらう。2、3年したら本来の就職先である官庁や商社、銀行に戻り、いざ鎌倉の時はすぐ駆け付けてもらう仕組み。しかし、せいぜい5～10人程度で微々たるものだった。

▽昭和16年初め 初級士官不足が 問題になり

飛行科だけでなく 陸戦・通信など一般兵科にも

▽年間 500人もの大学生が 志願するかどうか

「2年現役主計科士官」に準じ 募集することに

▽陸軍から 強硬な横槍

「陸軍は入隊後、下積みの苦勞をさせた後でやっと見習士官にしている。最初から中尉なんかにすれば、学生はみんな海軍に行ってしまう」

### 陸軍の幹部候補生制度

陸軍は日露戦争の時、突撃の先頭に立った小隊長クラスが相次いで倒れ、補充に苦しんだ。大正軍縮でも将校大勢を整理しており、昭和2年の兵役法で「現役兵として1年間訓練を受けた者が、中学以上の学歴があれば、試験により予備役少尉にする」制度を採用した。

8年からは将校要員の甲種、下士官要員の乙種に分かれたが、甲種採用は年間4千人程度。ところが支那事変が始まり、陸士は毎年2,400人採用していたが、とても足りず、甲種は13年5,600人、14年には1万1,000人と激増した。

▽結局 予備学生の身分は

採用時は 兵曹長の上 少尉候補生の下に

阿川弘之さん(稼)も 昭和17年9月

ちょっと損をして 兵科第2期予備学生に

●100人どまりだった飛行科予備学生が4,700人と急増したのは、昭和18年9月の入隊組から

▽遺稿集「雲流るる果てに」の第13期

▽「士官要員には水兵の生活をさせない」

海軍教育の建前を変えたのが 学徒出陣組から

も燃えたのだろうが、アメリカは学生の方から競って軍隊を志願した。

日本の場合、軍事教練で早くから軍国主義教育を受けたが、ピンタ、しごきなど軍隊生活の暗い面も知っていた。それが学生たちに「何も志願してまで」と二の足を踏ませたようだ。

18年2月締め切りの官立高校入学願書では、理工系志願者が募集4,836人に対し42,539人と8.8倍に激増した。心のどこかに理工系なら徴兵を免れるのじゃないか、そんな期待感も。

### 「2年現役主計科士官」制度

支那事変が始まり、大学出の有為な青年が1兵卒として召集され、大陸で戦死している。これだけの教育には何年もかかるのに、余りに惜しいし、国家としても大きな損失じゃないか——そう考えた海軍省人事局が法学部、経済学部卒業予定の学生に限り、試験の上、主計中尉として採用する。2年間の勤務を終えたら予備役とし、有事の際には召集して主計科士官の不足を補う。米内光政(鮎)、山本五十六(煇)に諮ると「それはいい」と快諾を得て昭和13年5月に第1期生を採用し、敗戦まで12期を数えた。

中曾根康弘(元鮎)も内務省入省後に主計科士官になった。経理学校入校の日から中尉。下士官から「中曾根学生、背筋をもっと伸ばして頂きます」と、敬語つきで教育されたという。

### 米内 光政(はな・みつまさ)

明治13(1880)～昭和23(1948)岩手県生まれ。海軍大将。昭和11年連合艦隊長官となり12年林内閣海相。15年1月首相就任。三国同盟に一貫して反対、陸相辞職で7月総辞職。19年現役に復帰、小磯、鈴木内閣海相。戦争終結に尽力した

▽海軍に入った 1万8,000人のうち  
5,500人がパイロット要員に合格  
大学在学の3,300人が  
遺稿集「あゝ同期の桜」の第14期  
大学予科 高専の2,200人は  
新設の 飛行専修予備生徒 第1期生に

●出陣学徒に待っていたのは、特攻要員の運命

海軍に「必死必殺」の特攻思想

特殊潜航艇基地(興船)で訓練に当たっていた黒木博司中尉、仁科関夫少尉は、最初は潜航艇を爆装して敵艦に体当たりさせることを考えていた。しかし潜水艦に1隻しか積めず速力も出ない。それよりは、九三式魚雷をエンジンとして使うことを思いついた。人間1人が乗って、操縦出来るように改造した人間魚雷だ。30ノットの高速で、潜水艦に4~6隻搭載出来る。

黒木は昭和18年暮れ海軍省、軍令部に採用方を血書嘆願した。海軍省は「形勢一気に逆転」の願いをこめて「回天」と命名し、19年2月26日呉海軍工廠魚雷実験部に試作を命じた。海軍の特攻作戦の組織的な採用の始まりだった。

▽海軍省は 昭和19年9月13日「特攻部」を新設  
体当たり作戦を 航空部隊にも 広げることに

▽米軍は 10月17日 レイテ島(フィリピン)に上陸  
21日 神風特別攻撃隊が出撃 航空特攻の始まり

第14期飛行予備学生は沖縄戦から特攻に

「ハトポッポ」(北瀬)で訓練した後、19年6月から「赤トンボ」と呼んでいた練習機で飛行訓練に入った。燃料がないため何日もストップ。体がなまらないようバレーボールなど運動で明け暮れしたが、飛行時間100時間前後という未熟な訓練を受けただけで、辛うじて間に合った特攻隊員として、九州南端・鹿屋基地などから続々と沖縄へ飛び立っていった。

●「海兵出を温存し、予備学生を前線に立たせた」

▽実際の戦死率は 海兵出の方が 高かった

山本 五十六(むねと・いそく)

明治17(1884)~昭和18(1943)新潟県生まれ。海軍大将。昭和11年海軍次官となり、米内(輔)を助けて三国同盟に反対。14年連合艦隊長官。開戦劈頭、ハワイ真珠湾攻撃を立案、実行した。前線基地視察中にソロモン諸島上空で米軍機に撃墜され、戦死した。死後元帥、国葬

「回天」特別攻撃隊の初出撃

菊水隊5隻が西カロリン諸島ウルシー湾の米艦隊攻撃に向かったのは昭和19年11月20日。黒木は9月に訓練中「回天」が浮揚せず殉職、仁科はその遺影を抱いて突入、タンカー1隻を撃沈して戦死した。

和田稔少尉の遺書

東京帝大法学部から学徒出陣し「回天」訓練中に23歳で殉職した和田は、妹に書き遺している。

「若菜、私は今、私の青春の真昼前を私の国に捧げる。私が望んだ花は、ついに地上に開くことがなかった。とはいえ、私は、私の根底からの叫喚によって、きっと一つのより透明な、より美しい大華を大空に咲きこぼれさせることが出来るだろう。私の棺の前に唱えられるものは、私の青春の挽歌ではなく、私の青春への頌歌であってほしい」

沖縄特攻で戦死した2人の少尉

林市造(20年4月12日 23歳)は、母子家庭の出身。母親は女手一つで、長男の林を京都帝大経済学部に入れ、4人の子供を育てた。林は出撃の決まった3月31日、母親に手紙を書いている。

「晴れて特攻隊員と選ばれて出撃するのは嬉しいですが、お母さんのことを思うと泣けて来ます。母ちゃん

## 戦死率

[飛行科予備学生]

10期(97人中61人63%) 11期(85人中69人81%)

12期(61人中30人49%) 13期=19年(4,788人中

1,607人34%) 14期=19年(3,323人中411人12

%) [一般兵科予備学生] 1期(257人中57人22

%) 2期(544人中101人19%) 3期=19年(3,627

人中711人20%)

[海軍兵学校]

69期(343人中222人65%) 70期(433人中287人

66%) 71期(581人中329人57%) 72期(625人中

337人54%) 73期=19年(898人中283人32%)

## ▽ぎりぎりの戦局は

海兵 予備学生 その出身を問わず

青年たちを 死戦に立たせずには おこななかった

## ●18年10月16日、早大戸塚球場で「涙の早慶野球戦」

▽第1回早慶対抗野球試合(1936年11月21日)は

早稲田から送られた 挑戦状で始まったが

40年後の「出陣学徒壮行試合」を

提案したのは 慶応義塾塾長 小泉信三だった

「学生生活に何かピリオドを打たせてやりたい。

またそうしてやるのが、一番の餞になるのじゃないか。それには伝統の早慶戦が一番いい」

▽早稲田大学当局は「敵性スポーツ」に消極的

東京6大学野球リーグ戦は 4月28日 中止に

▽早大野球部が奔走し 練習試合の形で非公開

選手の家族だけの 招待だったが

正午からの試合には 大勢の両校学生が…

▽慶応が 別当薫 大島信雄(捕、中野敏)

早稲田は 笠原和夫(捕のホームラン・バッター)

▽試合は10-1 早稲田の一方的勝利だったが

グラウンドもスタンドも 一つに結ばれていた

「海ゆかば」の大合唱 学帽を打ち振りながら

「戦場でまた会おうぜ」と 叫び合っていた

## ●小泉は前年、長男信吉(禰守中尉)を失っていた

▽早慶戦には「信吉には親として親らしいことをし

てやれなかった。せめて出陣学徒には…」の思い

が私をたのみと必死で育ててくれことを思うと、何も喜ばせることができず死んでゆくのがつらいのです。私は至らぬものですが、私を母ちゃんに諦めてくれ、ということは、立派に死んだと喜んで下さいということは、とてもできません

大塚晟夫(あきお 4月28日 映大23歳)は「はっきり言うが、俺は好きで死ぬんじゃない。何の心に残る所なく死ぬんじゃない。国の前途が心配でたまらない。いやそれよりも父上、母上、そして君たちの前途が心配だ。心配で心配でたまらない」

## 小泉 信三(こいずみ・しんぞう)

明治21(1888)~昭和41(1966)東京生まれ。大正1年~5年欧州各国に留学。帰国後慶応義塾教授。経済学史・社会思想史の講座を担当。昭和8年塾長に就任し14年藤原工業大学長を兼務。24年からは東宮教育参与として皇太子(暁皇)の教育に当たった。34年文化勲章受章

## 別当 薫(べつとう・かほ)

大正9(1920)~平成11(1999)兵庫県生まれ。慶応野球部主将の時学徒出陣。飛行科予備学生となり比島特攻要員に予定されたが、横浜で海軍中尉で終戦。昭和23年阪神に入団しホームラン打者として活躍。25年パ・リーグ毎日に移籍し29年選手兼監督。32年から大毎、近鉄、大洋監督を歴任。63年「野球殿堂」入り

## 小泉は信吉出征の日に

信吉は小さい時から海軍が大好き。昭和16年春慶応経済学部を卒業すると、三菱銀行に4ヵ月勤めただけで海軍2年現役主計科士官に。日米開戦で那智(暁艦)乗組員として出征し、小泉は「君の出征に臨んで言って置く」と

▽特設砲艦「八海山丸」主計長の信吉は

昭和17年10月22日 ギルバート海域で戦死した

▽小泉は 戦死の報せを受け取った日 奥さんに

「子供を育てて一人前にするのも親の務めだが、

立派に死んだ子供の一生を見届けてやるのも、

親の務めだ」奥さんは 弔問客が帰った後

信吉の写真を あれこれ 取り出し

それを見て 初めて 泣いたという

▽小泉は 悲しみを 押し隠して

愛息への 追惜の一文を 書き綴っていった

「彼の生前、私はろくに親らしいことをしてや

れなかった。この一篇の文が彼に対する私の

小さな贈り物である」

戦後 限定私家版(300部)として 親しい人に

昭和41年「海軍主計大尉小泉信吉」(娯楽)

こう書いている。

「吾々両親は、完全に君に満足し、君をわが子とすることを何よりの誇りとしている。僕は若し生れ替わって妻を択べといわれたら、幾度でも君のお母さまを択ぶ。同様に、若しわが子を択ぶということが出来るものなら、吾々は必ず君を択ぶ。人の子として両親にこう言わせるより以上の孝行はない。二十四年という年月は長くはないが、君の今日までの生活は、如何なる人にも恥ずかしくない。悔ゆることなき立派な生活である。お祖父様の孫らしく、又吾々夫婦の息子らしく、戦うことを期待する」

●小泉は昭和24年東宮教育参与、皇太子の教育に

▽美智子様とのご成婚に尽力 初の民間皇后誕生に

小泉起用には山梨勝之進の進言

小泉の次女妙さんの書いた「父 小泉信三」によると、戦争中、学習院長として皇太子の教育に当たってきた山梨は、「殿下のお傍には不幸にあったことのある人がお付き合いすると良い」との考えを持っていたという。

小泉は一人息子の信吉だけではなく、戦後はたった一人の最愛の孫をわずか2歳で亡くし、昭和20年5月25日の空襲で火傷を負って、顔面には初対面の人が思わず顔をそむけるほど、ひどいケロイドが残っていた。

小泉と吉田茂のエピソード

戦後間もなく、宇佐見洵が吉田茂(前)を訪ねると、「いま小泉さんが来るから君も会っていきたまえ」宇佐見が三田で教わった頃の小泉は、「六代目」と異名をとるほど、尾上菊五郎のような美男子だった。変わり果てた恩師の顔を見るには忍びなかったが、吉田は、小泉が入って来ると、つと立ち上がり、部屋の照明を暗くした。宇佐見は「見事な心遣いであった」

..... 阿川弘之さんの話 .....

予備学生として台湾・高雄で教育を受けている時、突然、隊内のスピーカーから「慶応の卒業生に告げる。小泉塾長のご令息小泉主計中尉が戦死された。慶応出身の学生は夕食後、直ちに食堂に集まれ」阿川さんは「出身校の総長の子息が亡くなくても、たとえ総長自身が亡くなくても、こういう反応を示す者は、慶応以外にはなさそうに思われた。慶応の連中が軍隊に入ってから団結心が強いこと、小泉塾長に信頼と敬愛の気持ちを持っていることを知って驚いた」

山梨 勝之進(やまなし・かつのしん)

明治10(1887)～昭和42(1967)宮城県生まれ。海軍大将。昭和3年海軍次官就任、ロンドン海軍軍縮条約(5年)締結に尽力した。佐世保、呉鎮守府長官を歴任、8年予備役。14年～21年学習院長。27年まで東宮教育参与として皇太子の教育に

宇佐見 洵(うさみ・まこと)

明治34(1901)～昭和58(1983)山形県生

### ▽山梨は 立派な軍人だった

昭和5年 ロンドン海軍軍縮会議の時

次官の山梨は 軍艦建造競争をするよりは  
「国際協調をすることが日本を救う道だ」

条約締結に 心血を注いだが 昭和8年  
満56歳を目前に「条約派」として予備役に

若槻礼次郎(前経)は回顧録に書いている

山梨に「あんたなどは当り前に行けば連合艦隊の司令長官になるだろうし、海軍大臣にもなるべき人だと思う。それが予備役になって、今日のような境遇になろうとは、見ていて、実に堪えられん、と言った。すると山梨は、いや、私はちっとも遺憾と思っていない。軍縮のような大問題は、犠牲なしには決まりません。誰か犠牲にならなければならん。自分がその犠牲になるつもりでやったのですから、私が海軍の要職から退けられ今日の境遇になったことは、少しでも惜しむべくではありません、と言った。今更ながら、山梨の人物の立派なことを知ったのであった」

これだけの見識、国際感覚を持っていた山梨が、開戦前、海軍を動かす地位に残っていたらと、つくづく残念な気がする。

### ▽山梨は 戦後の皇室の在り方

将来の天皇像を 考えていたのでは…

### ▽これからの皇室は

国民に 真に 敬愛される皇室にならなければ

弱者に対する思いやり 広い心 労わりの心  
それには 小泉のような 不幸にあった人に

皇太子の教育をしてもらうのが 一番いいと

### ▽ヴァイニング夫人(馱子の英語教師)も

小泉の火傷痕には 驚いたようだが

皇室の変化を 敏感に 感じ取っている

「終戦までは、肉体的欠陥のある者は、皇族方の前に出ることさえ許されなかったことを思えば、小泉博士が皇太子殿下の教育参与到任命されたことは、博士の榮譽として、また日本に起りつつある大きな変化を示すものとして、注目すべき事実である」

まれ。三菱銀行に入り昭和25年取締役。  
36年頭取。39年民間人初の日銀総裁

### 吉田 茂(よしだ・しげる)

明治11(1878)～昭和42(1967)東京生まれ。外務次官、駐伊、駐英大使歴任。戦後東久邇、幣原内閣外相。昭和21年鳩山一郎の公職追放で自由党総裁となり首相に就任。5次の内閣を組織、講和条約、日米安全保障条約締結。29年造船疑獄で総辞職。政界を退いたが、亡くなるまで元老として政府・自民党に影響力。国葬

### 尾上 菊五郎(おえ・きくごろう)

明治18(1885)～昭和24(1949)東京生まれ。歌舞伎俳優。明治36年六代目菊五郎を襲名。中村吉右衛門と並び大正・昭和の劇壇に名声を挙げた。没後文化勲章

### 若槻 礼次郎(かつき・れいじろう)

慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県生まれ。蔵相、内相歴任、大正15年首相。昭和2年金融恐慌で辞職。ロンドン軍縮会議(5年)首席全権。6年首相に就任したが満州事変で辞職。著に「古風庵回顧録」

### 晩年の山梨

82歳の時から、海上自衛隊幹部学校で講話を行い、昭和42年、90歳で亡くなる前年まで続けた。1回の講話に資料の整備、原稿作成、外国公館などへの照会に3ヵ月も費やし、原稿は大学ノート40冊にも及んだという。「人間いかに生きるべきか」を、身を以て示した人だった。

### ヴァイニング(Elizabeth Gray Vining)

1902～没 阿美利加の児童文学作家。昭和21年皇太子の英語家庭教師として招かれ、学習院などでも講義。25年帰国



●日本海軍は、レーダーに負けた

▽米軍のガダルカナル上陸は 昭和17年8月7日  
ブルドーザーで いち早く 制空権を握った

— 連合艦隊司令部(トラック)では —

参謀会議で「アメリカの機械力はすごいらしい。ブルドーザーとかいうもので、飛行場を造るのが日本軍の十倍も早い。目でいこう。青い目は夜はダメだが、黒い目は見える。夜戦でいく外はない」こんな意見で全員が一致したほど、日本海軍は夜戦に自信を持っていた。

▽日本海軍は 日露戦争から日米開戦まで 36年間  
「日本海海戦勝利の伝統」の中に 生きてきた

▽しかし「百発百中」「月月火水木金金」

猛訓練も 所詮は 肉眼だけに頼るもの

▽米艦隊は レーダーで 日本艦隊を捉え

その電波が 同時に 大砲の照準を整え

真っ暗闇の中から 命中弾を撃ち込んで来た

●異変に気付いたのは、サボ島沖海戦(昭和17年10月11日)

▽ガ島輸送作戦支援中の 第6戦隊が

新式レーダー装備の 軽巡ヘレナに

距離1万800㍎で捕捉され 先制攻撃を受けた

▽古鷹(駆) 吹雪(駆)が撃沈され

旗艦青葉(駆)も大破 五藤存知少将(司令)が戦死

— レーダーなくしては戦えなくなった —

18年7月12日未明の coronabank 島沖海戦では、第2戦隊旗艦の神通(駆)が危険を承知で探照灯を照射した。後続の駆逐艦9隻が酸素魚雷(時速90㍎で2万2千㍎走る)で軽巡3隻、駆逐艦1隻を撃沈したが、神通は実に2,600発の集中砲火を受けて船体を真っ二つにされ、沈没した。

8月6日深夜には、陸軍部隊を輸送中の駆逐艦4隻がペラ湾でレーダー照準により雷撃され、交戦のいとまもなく3隻が撃沈され、乗っていた第6師団(歩)の将兵940人のうち、820人が犠牲になった。これ以後、米軍から「東京急行」と呼ばれていた駆逐艦による中部ソロモン諸島への増援作戦は中止された。

…… 電波で見る時代になっていた ……

艦橋の見張りの水兵には、視力の優秀な者を選抜し、特製のビタミンAを飲ませて、夜間8㍎先でも識別出来るほどにしていた。戦艦大和、武蔵には、距離を測るため、長さ15㍎もある巨大な測距儀が取り付けられた。

しかし肉眼では、時代遅れも甚だしく、大和の測距儀は「馬鹿メートル」と自嘲されることになる。

— 高松宮日記(18年8月28日) —

所見 敵ハ「コロンバンガラ」島ヲ背景トシ、狭視界巧ミニ接敵発射、雷撃効果ヲ確メ砲撃セルモノニシテ、早クヨリ電探ヲ使用シ、魚雷戦準備ヲナセルコト確實ナリ。電探、逆電探装備ヲ要ス。

高松宮 宣仁親王(たかまつのみや・のひと)

明治38(1905)～昭和62(1987)大正天皇の第3皇子。海軍大佐。戦争中、軍令部参謀、砲術学校教頭。戦後は国際文化振興会総裁など。海兵在学中、大正10年から書き続けられた「高松宮日記」(20冊)

…… 富塚清の「戦中日記」から ……

(18年7月21日)大阪経済倶楽部、京都経済倶楽部—この講演のあと警察署に呼ばれる。何だろうと思ったら、最近のどこかの講演で、「防空監視所が役に立たぬ」と私がいったのは、いけないという注意である。たしかこの頃、町内会などで敵飛行機の見張りをおくことに決められている。「それが役に立つか？」と質問された時、たぶんうっかりして「そんなものはだめだ。目で見える頃には、もう四、五㍎に迫っている。それから用意するのはおそい。電波探知機で何十㍎先のものを見つける必要がある」と、私はいっ

●レーダー開発に、なぜ後れをとったのか？

▽日本海軍は 一点豪華主義

戦艦大和 ゼロ戦 酸素魚雷など

世界最先端兵器を開発 実用化させたが

総合的な技術力は まだまだ 底が浅かった

▽レーダー開発の責任者 谷恵吉郎(後藤)は

「当時の日本のレーダー技術は爪先立ちの状態。

レーダーを作るには、総合的な工業技術が必要

で、全ての部品で高いエレクトロニクス技術が  
要求されたが、日本にはそれがなかった」

▽昭和11年 海軍技術研究所主任会議では

研究テーマに「電波兵器の開発に着手すべし」

▽谷(当)は「敵艦に反射して返ってくる電波を  
利用し、敵艦までの距離と方向を捉える研究」を  
提案したが 採用されなかった

理由は「敵前で電波を出すことは、自分の位置  
を教えるようなもの。奇襲を伝統とする日本  
海軍にはなじまない」

●昭和14年秋、技術研究所は基礎的実験に成功した

▽連合艦隊演習で 鶴見海岸 4階建てビル屋上に

10㍻波送信機を置いて 沖に停泊の赤城(豊)に  
電波をぶつけ 反射電波を受信した

▽海軍首脳は その価値を認めず

研究陣は拡大されず「急げ」の号令もなかった

「レーダーの威力」は報告されていた

ドイツ空軍の英本土爆撃は15年8月10日から  
始まった。劣勢の英国空軍が勝利したのは、ド  
ーバー海峡5カ所に設置したレーダー基地で、  
敵機来襲をいち早くキャッチし効果的な迎撃  
態勢をとることが出来たからだった。英国駐  
在海軍武官からは、再三報告されていたが…

●本格的な研究着手は16年2月、ドイツに軍事視察団

▽伊藤庸二(後藤)は 詳細な報告書を送ってきた

高射砲陣地(カターニョ)のレーダーは

直径3㍻のパラボラアンテナ 探知距離40㍻。

敵味方の 識別装置も 備えていた

▽柳本柳作(第3艦隊)が 研究態勢整備の先頭に

たのである。ところが、これが防空当  
局の指令ととがっているので問題視  
されたい。「すみませんでした。  
以後慎みます」といって引き下る。

富塚 清(とみか・きよし)

明治26(1893)～昭和63(1988)千葉県生  
まれ。東京帝大航空研究所に入り、昭和  
7年教授。戦後は明大、法政大で教授。著  
に「ある科学者の戦中日記」

— 当時の日本の工業力は… —

翼をもがれたゼロ戦に、エンジンの  
壊れたゼロ戦の翼を継ぎ足し、1機分  
仕立てようとしてもボルトの穴が合  
わない。結局2機とも壊れたまま放っ  
ておくしかない。それが、撃墜したB  
29(第3艦隊)の翼で実験してみると、別々  
の飛行機の部品が寸分の狂いもなく  
ピタッと合う。日本の技術者は「こり  
ゃダメだ。とてもかなわん」と思った  
という。今ボルト、ナットの精密技術  
では日本が世界一だと言われるが、  
当時はそんな程度だった。

— 谷の言葉 —

革新兵器の達成には、トップがしっ  
かりしていなければダメだ。下部組  
織の充実だけでは達成出来ない。海  
軍の技術研究は艦政本部の監督下  
にあり、その艦政本部のモットーは「明  
日の戦闘に間に合わせる」だ。どうし  
ても目前の兵器改善に追われて、それ  
以上の革新兵器には到底手がつけら  
れない状況だった。

柳本 柳作(やなぎもと・りゅうさく)

明治27(1894)～昭和17(1942)長崎県生  
まれ。海軍大佐。昭和16年5月軍令部第3  
課長。蒼龍(第3艦隊)艦長となり、ミッドウェ  
ー海戦で戦死した。死後少将

▽高柳健次郎博士を 海軍技師として招き

日本無線 日本電気など 技術陣を督励した

▽昭和16年9月 国産レーダー第1号が完成

艦船用には使えず 飛行機見張り用に 勝浦に

▽初めて 軍艦に装備したのは

ミッドウェー海戦(17年6月5日)の 伊勢 日向(艦)

開発されたばかり 性能も 訓練も劣り

機動部隊の後方では 実戦には 役立たなかった

▽ドイツから 高性能レーダー(ウルツバルク)を

伊号第30潜水艦が 半年がかりの大航海で

シンガポールまで 運んで来たが

17年10月13日 出航直後に 機雷に触れ沈没

▽待望の製造図面は 19年1月7日 日本無線(三浦)に

伊号第8潜水艦が 前年暮れ 現物と共に

技術者は「日本の電波兵器に比べ10年以上、  
進んでいるように思えた。構成や基本設計の考  
え方も、工業技術のレベルも全く違っていた」

●昭和19年夏、艦船用レーダーが完成した時は…

▽艦隊は 油を求めて ボルネオへ

艦船に装備出来ずに 本土防衛用に

▽20年に入ると B29の本土空襲が激化

迎撃には 本土500ヶ所、海上で キャッチの必要

4月に完成 石廊崎など 5カ所に配置したが

迎え撃つ 肝心の飛行機が なくなっていた

●アメリカ海軍は、昭和5年にはレーダー実験に成功

▽14年に 遠距離対空用レーダーを開発

ハワイのレーダー基地に 6台配置した

▽マサチューセッツ工科大に レーダー研究所

16年4月 艦船用のマイクロ波レーダー

翌月には 目標自動追尾の 対空レーダー完成

▽40人ほどの研究所員は 戦争末期には 3千人以上

●日本は、いつも精神論、精神主義だった

▽参謀本部の 飛行機増産要求(17年7月)に

東条(訕)は「飛行機の生産だけでは戦争は出来  
ない。少ない飛行機で勝つ工夫、転換が必要だ」

▽松下電器のポスターには 東条の顔写真入りで

「東条首相の算術  $2 + 2 = 80$ 」

高柳 健次郎(たかやなぎ・けんじろう)

明治32(1899)～平成2(1990) 静岡県生  
まれ。昭和5年浜松高等工業教授となり  
10年テレビ実験に成功。12年NHK(楠  
磯謙)に移り、14年無線によるテレビ送  
受信に成功した。戦後、日本ビクターに  
入り45年副社長。56年文化勲章受章

「柳本はミッドウェーで戦死した」

空母蒼龍は急降下爆撃で命中弾3発  
を受け炎上3時間20分。柳本(艦)は総  
員退去を命じて艦橋に一人止まり、  
「君が代」を歌いながら艦と運命を共  
にした。谷提案から6年間の空費が主  
力空母4隻喪失の大敗につながった。

「米英に先を越されて」

昭和16年5月アメリカから新着の写  
真画報を見ていた軍令部参謀の間に  
激震が走った。4月に就航した最新鋭  
戦艦ノースカロライナの写真で、艦  
橋上部にエアブラシで消した跡があ  
り、「レーダーではないか」ワシント  
ン駐在海軍武官に調査の電報が打た  
れ、「艦橋に籠のような構造物あり」  
3ヵ月後8月9日から大西洋上の米英  
首脳会談では、チャーチル(英訕)座乗  
の戦艦プリンス・オブ・ウェールズ艦  
橋トップには、はっきりレーダーが。  
開戦直後にマレー沖海戦で撃沈した  
時、レーダーを回収しようと、船体引  
き揚げを真剣に検討したという。

「東条の算術」とは ……………

これは戦時日本の算術だ 然し一度  
には出来ない 毎日いろいろと工夫・  
研究して難しい仕事に勇敢に取り組ん  
で行き 今日 $2+2=5$  明日は $2+2=7$ に  
する これが $2+2=80$ にする生産増強  
の鍵だ (松下電器のポスターから)

▽昭和18年4月18日 山本五十六(連合艦隊)が戦死

「山本元帥の仇を討て」「元帥の仇は増産で」

▽学徒出陣を決めた閣議(9月21日)で

やっと「航空機生産最優先」の方針を 打ち出す

▽軍需工場は 工員を次々と 戦場にとられ

17年の470万人をピークに 減少の一途

「東条の算術」でも 労働者は 生み出せない

●労働力供給源として、中学、女学生、未婚の女性

▽閣議決定では 17業種に 40歳未満の男子就業禁止

代わりに 女性を その仕事につけること

▽「女子勤労挺身隊」の工場動員も 始まった

女学校の新規卒業生は 同窓会単位で

14歳以上25歳未満 未婚 無職の女性は

町内会 婦人会単位で 組織された

▽中学 女学校は 18年4月から 1年短縮し4年制に

大学予科 高等学校も 2年に

▽勤労働員は 中学高学年を対象に 17年1月から

年間30日以内が 19年初めに 4ヵ月に延長

3月7日には 中学3年生以上は 無期限に

▽8月23日「学徒勤労令」 中学低学年も 工場へ

▽敗戦まで動員学徒は 男子192万5千 女子150万7千

この他 女子勤労挺身隊47万

「学生服の労務者」 学業の放棄に

●昭和18年11月1日、増産のため軍需省設置

▽軍需生産を 計画的 統一的に行い

効率を高めようと 初代軍需相は 東条が兼務

▽19年9月には 月産2,527機(戦中の数値)

それでも 米国の3分の1以下

▽本土爆撃で 生産量は 急激に低下した

南方資源を運ぶ船は 1トン造るごとに 3トン沈没

原料も不足 20年7月の月産は 1,131機に

▽兵器の質も 次第に低下 航空機事故に

参謀本部「機密戦争日誌」(19年6月1日)

航空ノ事故損耗ハ一ヵ月一飛行団分(120機)、

一ヵ年四飛行団分ノ莫大ナル数ナリ

▽アメリカは 開戦と同時に

3交代制による 24時間操業態勢を とっていた

―― 前言翻した小泉親彦(駒) ――

昭和18年2月議会で、「家族制度を考慮して国民徴用令による女子の徴用は考えていない。女性の役割は、家庭を守ることだ」人手不足の前には、なりふり構ってられず、19年8月には1年間動員が義務化された。

小泉 親彦(こひづみ・ちかひこ)

明治17(1884)～昭和20(1945)福井県生まれ。陸軍軍医中将。昭和9年軍医總監。青年の体位向上に努力し、16年第3次近衛、東条内閣厚相。敗戦直後、自決した

…… ひどかった陸海軍の対立 …………

遠藤三郎陸軍中将(騷動空軍機隊)は「全てが欠陥だらけ。その中でも一番大きな欠陥は陸海軍の対立だった」

三菱、中島飛行機は陸海軍両方の飛行機を造っていたが、同じ会社でも、陸軍の技師と海軍の技師の交流は許さない。絶対秘密主義で、機材の融通もさせない。ニッケルがあっても、陸軍の世話したものだと言われ、海軍の飛行機には使わせない。

海軍の建築資材で建物は出来ても、そこに入れる機械が陸軍のものだと、停車場に放っておかれ、赤錆だらけ。

遠藤 三郎(えんどう・さぶろう)

明治26(1893)～昭和59(1984)山形県生まれ。陸軍中将。航空士官学校長などを経て昭和18年航空兵器総局長官(騷動)。戦後、憲法擁護国民連合常任理事。平和運動や日中国交回復運動に活動した

―― 軍需工場爆撃で多くの犠牲 ――

動員学徒の死者は1万966人。そのうち8,953人が広島、長崎の原爆で。

▽日本は 生産態勢を整える 生産基盤が低かった  
大量生産態勢に 持って行くには  
バス輸送による通勤網 食堂整備など  
細かな面での 総合対策が 必要だった  
▽「東条の算術」では 竹槍訓練の発想しか  
竹槍こそは 戦おうにも 竹槍しかない  
日本の現実を 何よりも雄弁に 物語っていた

●戦争末期、まともな教育は軍関係の学校だけ

▽海軍省は 昭和19年7月25日 20年春から  
「兵学校、経理学校の予科生徒募集」と発表  
海軍の試験には 英語があった

▽海軍で 英語教育が守られたのは  
第40代海兵校長 井上成美(17年10月26日誕生)

戦争中の海軍首脳の姿

井上が次官に就任すると、米内(鮎)から燃料の現状について、「奉答に必要な資料を用意してほしい」軍需局長に資料作成を依頼すると「本当のことを書きますか?」「変なことを聞くね。陛下に嘘は申し上げられない。無論本当の数字だ」 嶋田繁太郎が海相時代、陛下が心配しないよう、命令でいつも油は十分あると、作文した資料を提出していたのだという。

▽井上が目指したのは 軍人教育ではなく

「社会に通用する人間」の教育

▽「実社会へ出て、すぐ目先の役に立つような教育は  
丁稚教育であって、兵学校が丁稚の養成を教育目  
標にするのは不見識だ」よく言っていた

●海軍省教育局が「18年入試から英語除外」を要請

▽英語追放が 時代の流れになっていた

「成績優秀な少年が、英語のない陸士へ」

▽どうするか 教官会議で 教頭が

「英語の入試反対に賛成の方は起立願います」

150人中 英語科の5、6人を除き みんな立った

▽教頭が「ご覧の通りです。宜しゅうございますか」

▽井上は「いかん!。俺は校長権限で、入試から英語  
を廃止することは許さん。英語の授業を止める  
ことはもちろん許さん。現在どおり!」

井上 成美(いのうえ・せいよし)

明治22(1889)～昭和50(1975)宮城県生まれ。海軍大将。昭和12年軍務局長となり米内、山本を助けて三国同盟に反対。航空本部長、第4艦隊長官を歴任し17年海兵校長。19年8月米内(鮎)の下で次官となり終戦工作。20年5月軍事参議官

陸軍は早々と英語廃止

15年4月12日、予科士官学校、経理学校や幼年学校の生徒採用規則を改正し入学試験での英語など外国語を廃止した。「外国重視偏重の弊風を打破改正するの先駆たらん」わざわざこんな発表をしたが、歴史は国史だけ、外国地理もアジアだけ。

井上は海兵の「教育改革」

まず気が付いたのは、生徒の目が釣り上がり、ゆとりがない。下らないルールが増えて、生徒が縛られている。教育参考館の壁に飾られていた歴代海軍大将66人の額入り写真を全部下ろさせた。「兵学校の教育は出世主義ではない」日本を今日の事態に追い込んだ国賊とも言うべき提督が何人もいて、その肖像を、若い生徒に仰がせるわけにはいかないの思いも。

休暇の時に、「何をした」の日記の提出も止めさせた。上級生が事前検閲、メイキングすることが多く、「こういうことを続けていると陛下の前で嘘を申し上げる海軍士官が出来る」

嶋田 繁太郎(しま・しげろう)

明治16(1883)～昭和51(1976)東京生まれ。海軍大将。昭和16年10月東条内閣海相。19年2月には軍令部総長も兼務したが、東条追従の姿勢が反発を招き7月辞任。A級戦犯で終身禁固刑。30年釈放

### 井上の言葉

いったいどこの海軍に、自国語しか話せないような将校があるか。そのような者が、世界へ出て通用するわけがない。海事貿易上、英語が今日なお世界の公用語として使われている以上、海軍将校たらんとする人間にとり、英語は必須の学術であり、技能である。試験に英語があるのを嫌がって、秀才が陸軍へ流れるのなら、流れて構わない。

### 井上、戦後の回想

私は、この青年たちが可哀相だと思ったんです。戦争に負けてほっぽり出されたら、どうするだろうと思ってね。親の身になってみると、国のためだなんていって勇んで兵学校に入って来て、戦争に負けて途中で放り出されたら、鉄砲の撃ち方ばかりなんか覚えていても、さて社会で働こうといったって、どうなるかと。

- 井上は昭和20年5月大将に昇進、軍事参議官に転出  
▽終戦工作途中が 心残りだったのだろう

米内に「負け戦、やはり大将だけは出来」

自作の川柳を示し「後世の物笑いですよ」

- ▽戦後は 相模湾の見える 横須賀市長井の家で  
近所の子供たちに 英語を教えるだけの生活

- ▽終戦を決めた首相 鈴木貫太郎も 思いは同じ  
海兵を視察した後「井上君、兵学校のな、生徒教育の本当の効果は、大体二十年後にあらわれる。いいか、二十年後だぞ、井上君」

### 「鈴木貫太郎自伝」から

戦争というものは、あくまで一時期の現象であって、長期の現象ではないということを知らねばならない…敗けるということは滅亡するということと違うのであって、その民族の活動力さえあれば、立派な独立国として世界に貢献することもできるのであるが、玉碎してはもう国家そのものがなくなり、再分割されてしまうのだから、実も蓋もない。

### 英語の教育法も一新した

昭和18年12月1日、第75期生3,500人が入校して来ると、授業では「英英辞典」しか使わせなかった。従来のような英文和訳中心の教え方では、目で英文を追いながら頭の中は日本語で考える。「英文は頭より読み意味の分かることを目標にすべし」

在校生と合わせ5,000冊の大量の辞書購入に、主計課長から「一挙に買い入れる予算がない」と反対が出ると、井上は笑顔で呼び掛けた。「要するに金で済むことじゃないか」

### 井上は終戦を考えていた

小田切政徳(齋藤)は「表面に出しては言えないが井上は終戦を考えていたようです。日本が負ければ、兵学校の生徒は民間の学校に転出しなければならぬ。その時困るだろうと、英語ならびに数学、物理、化学といった普通の学問を奨励されたのです」

### 井上の英語塾

夜や土曜の午後に英語を教えたが、月謝はとらなかった。塾生は130人に及んだが、親たちは何人かで100円包んだり、野菜、魚を届けたという。

井上は三つのことを約束させた。約束した時間に遅れない、物を大事にする、困っている人を見たら助ける。みんな「英語は勿論教わりましたが、それ以上に教えて頂いたのは人間としての生き方でした」

### 鈴木 貫太郎(すずき・かんろう)

慶応3(1867)～昭和23(1948) 大阪生まれ。海軍大将。海兵校長、連合艦隊長官。昭和4年侍従長。二・二六事件で重傷。15年枢密院副議長。20年4月首相に就任し戦争終結。著に「鈴木貫太郎自伝」



「学徒出陣と勤労働員」関係年表

昭和36	1903	11. 21 第1回早慶対抗野球試合	昭和18	1943	7. 12 コロンバラガラ島沖海戦。神通沈没
37	1904	2. 10 ロシアに宣戦布告。日露戦争始まる			8. 6 ベラ湾海戦。レーダー雷撃で駆逐艦3隻沈没。輸送中の陸兵820人犠牲に
38	1905	5. 27 日本海海戦。バルチック艦隊を破る			9. 8 イタリア、連合軍に無条件降伏
大正3	1914	7. 28 第1次世界大戦始まる			9. 21 閣議「国内必勝態勢強化方策」で航空機生産優先決定 ◆法文系学生徴兵猶予停止◆改札、車掌など17業種に男子就業禁止◆14~25歳の女子勤労挺身隊
7	1918	11. 11 ドイツ降伏。第1次大戦終わる			9. 22 東条首相、ラジオで1億総決起訴える
11	1922	2. 6 ワシントン会議で海軍軍縮条約調印			10. 2 在学徴集延期臨時特例公布、施行
14	1925	5. 1 陸軍軍縮。4個師団を廃止			10. 16 戸塚球場で「出陣学徒壮行早慶戦」
昭和2	1927	4. 1 兵役法公布。幹部候補生制度採用			10. 21 神宮外苑で「出陣学徒壮行会」
5	1930	4. 22 ロンドン海軍軍縮条約調印			10. 25 出陣学徒の徴兵検査始まる
6	1931	9. 18 柳条湖で満鉄爆破。満州事変始まる			10. 28 大映映画「無法松の一生」封切り
12	1937	7. 7 盧溝橋事件勃発。支那事変始まる			11. 1 軍需省発足。初代大臣は東条兼務◆兵役服務年限を5年延長し45歳に
14	1939	5. 11 ノモンハン事件始まる			12. 1 陸軍出陣学徒兵入隊(海軍は9、10日)
		8. 30 山本五十六、連合艦隊長官に			12. 21 伊号第8潜水艦、ドイツから最新鋭レーダーと製造図面を持ち帰る
15	1940	9. 1 第2次世界大戦始まる			12. 24 19年度から徴兵適齢を1年下げ19歳
		4. 12 陸軍、士官学校など入試に英語廃止	19	1944	2. 17 トラック島の海軍基地空襲され機能壊滅。ラバウル航空隊、同島へ撤収
		7. 24 海軍、零式戦闘機(ゼロ戦)制式採用			2. 26 海軍省、人間魚雷「回天」の試作指令
		8. 10 ドイツ空軍の英本土爆撃始まる			3. 7 中学3年生以上の勤労働員、無期限に
		9. 27 日独伊三国同盟、ベルリンで調印			3. 8 インパール作戦開始
16	1941	1. 16 海軍のドイツ軍事視察団、横浜出港			6. 16 中国基地発進のB29、北九州初空襲
		6. 22 独軍、ソ連に侵攻。独ソ戦始まる			7. 7 サイパンの日本軍守備隊玉砕
		8. 9 大西洋上で米英首脳会談			7. 18 東条内閣総辞職
		10. 18 東条英機内閣発足			7. 22 小磯国昭・米内光政連立内閣成立
		12. 8 太平洋戦争始まる。真珠湾攻撃			7. 25 海軍、予科生徒の20年春採用を発表
		12. 10 マレー沖海戦で英戦艦2隻撃沈			8. 5 井上成美、海軍次官に就任
		12. 16 戦艦大和(69, 100ト)竣工			8. 23 学徒勤労令公布。中学低学年も動員
17	1942	1. 7 東京の中学、高校に初の勤労働員令			9. 13 海軍省、「特攻部」を新設
		1. 22 海軍、ラバウルを占領し航空基地に			10. 17 米軍、フィリピン・レイテ島に上陸
		4. 18 米爆撃機、東京など日本本土初空襲			10. 21 海軍神風特別攻撃隊、レイテ沖出撃
		6. 5 ミッドウェー海戦。赤城など空母4隻を失う。蒼龍艦長柳本柳作大佐戦死			10. 24 レイテ沖海戦。戦艦武蔵沈没
		7. 9 米軍、アリューシャン列島で不時着のゼロ戦を発見し機体復元			11. 20 「回天」特別攻撃隊、ウルシー湾出撃
		8. 7 米軍、ガダルカナルに上陸			11. 24 マリアナ基地のB29、東京初空襲
		10. 11 サボ島沖海戦。ガ島輸送作戦中の第6戦隊、レーダー装備米艦隊に敗れる			3. 10 B29、東京大空襲。江東全滅
		10. 13 ドイツ最新鋭レーダーを積んだ伊号第30潜水艦、シンガポール沖で沈没			3. 17 硫黄島の日本軍守備隊全滅
		10. 22 小泉信三の長男信吉(海軍中尉)戦死			4. 1 米軍、沖縄本島に上陸
		10. 26 海兵第40代校長に井上成美	20	1945	4. 7 鈴木貫太郎内閣成立。米内海相留任◆戦艦大和、沖縄特攻作戦で沈没
18	1943	1. 13 内務省、米英楽曲演奏、レコード禁止			5. 7 ドイツ、連合軍に無条件降伏
		2. 1 ガ島撤退作戦始まる(7日完了)			8. 6 広島に原爆投下(9日には長崎に)
		2. 5 官立高校願書締切。理科志願者激増			8. 8 ソ連、対日宣戦布告
		3. 2 日本野球連盟、用語の日本語化決定			8. 15 敗戦。玉音放送
		4. 1 中等学校4年制、大学予科、高校2年に			10. 5 ヴァイニング夫人(駐子の親類)来日
		4. 18 山本連合艦隊長官戦死	21	1946	
		4. 28 東京6大学野球連盟、リーグ戦中止			
		5. 29 アッツ守備隊2600人玉砕(30日発表)			
		6. 25 閣議、学徒戦時動員体制要綱を決定			